

平成21年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立御幸小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、「開かれた学校づくり」を推進し、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。このような取組を通して、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成21年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

I 調査の概要

1 目的

- ア 国が、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- イ 各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ウ 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査期日

平成21年4月21日（火）

3 調査対象

第6学年

4 本校の参加状況

① 国語A	79人	国語B	79人
② 算数A	79人	算数B	79人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「全体的な傾向」、「分類・区別の傾向と課題」、「指導改善のポイント」などの分析を併せて記載した。

Ⅱ 調査結果の概要

1 国語

全体的な傾向

- ・ 国語Aの平均正答率は全国平均に比べて約4ポイント低い。正答数の分布状況は全国と比べ10・12・18問の正答率が高く、16・17問の正答率が低い。
- ・ 国語Bの平均正答率は全国平均とほぼ同じである。正答数の分布状況は3・7・9問の正答率が高く、4・6問の正答率が低い。

<分類・区分別集計結果>

【国語A】

分類	区分	対象設問数	平均正答率 (%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	1	74.7	69.2	68.0
	書くこと	4	80.1	87.3	85.4
	読むこと	2	70.3	70.6	68.7
	言語事項	12	59.4	63.3	64.2
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	1	74.7	69.2	68.0
	話す・聞く能力	1	74.7	69.2	68.0
	書く能力	4	80.1	87.3	85.4
	読む能力	2	70.3	70.6	68.7
	言語についての知識・理解・技能	12	59.4	63.3	64.2
問題形式	選択式	5	76.2	81.6	80.1
	短答式	12	61.0	65.3	65.9
	記述式	1	74.7	69.2	68.0

【国語B】

分類	区分	対象設問数	平均正答率 (%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	5	58.5	62.8	61.3
	書くこと	2	15.8	15.6	14.5
	読むこと	3	58.2	59.3	56.5
	言語事項	2	53.8	61.5	59.7
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	6	45.8	48.1	46.0
	話す・聞く能力	5	58.5	62.8	61.3
	書く能力	2	15.8	15.6	14.5
	読む能力	3	58.2	59.3	56.5
	言語についての知識・理解・技能	2	53.8	61.5	59.7
問題形式	選択式	2	66.5	67.8	65.8
	短答式	2	45.6	49.7	48.7
	記述式	6	45.8	48.1	46.0

※ 1つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

分類・区別の傾向と課題

【話すこと・聞くこと】

- A 領域の平均正答率は74.7%で、市平均より約5ポイント高い。司会の進め方のよいところを説明する問題の正答率は県より7ポイント高い。
- B 領域の平均正答率は、市平均より約4ポイント低い。特に、目的や意図が伝わるように必要な情報を取り出す内容に課題がある。

【書くこと】

- A 領域の平均正答率は80.1%と他の領域と比較しても最も高いが、市平均より約7ポイント低い。特に、はがきの表書きに必要な事柄を順序を考えて書くことに課題がある。
- B 領域の平均正答率は15.8%で、市平均より0.2ポイント全国平均より1.3ポイント高い。

【読むこと】

- A 領域の平均正答率は70.3%で、市平均とほぼ同じ、全国平均より1.6ポイント高い。
- B 領域の平均正答率は58.2%で、全国平均より1.7ポイント高いが、市平均より1.1ポイント低い。特に、目的や意図に応じて、自分の考えをまとめることに課題がある。

【言語事項】

- A 領域の平均正答率は59.4%で、市平均より3.9ポイント全国平均より4.8ポイント低い。特に、ローマ字で読む・書く、接続語を使うことに課題がある。
- B 領域の平均正答率は53.8%で、市平均より7.7ポイント全国平均より5.9ポイント低い。目的や意図が伝わるように話の組み立てを工夫しながら説明することに課題がある。

国語に関する児童質問紙調査の状況

《傾向》

- 「国語の勉強は大切だ」「国語の授業の内容が分かる」「読書は好き」「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出て役立つ」と回答した児童の割合が、全国平均を上回っている。
- 「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりする」「国語の授業で意見などを発表したりするとき、うまく伝わるよう話の組み立てを工夫する」と回答した児童の割合は、市平均より約20ポイント、全国平均より約15ポイント低い。

指導改善のポイント

【話すこと・聞くこと】

- ・ 目的や意図が伝わるように必要な情報を整理して活用できる力を高めるため、話し合いやスピーチ、ディベートなど様々な言語活動を引き続き取り入れる。

【書くこと】

- ・ 必要な情報を取り出し目的に応じて文章を適切に書くことができるように、スピーチの原稿作りやディベートのために意見文作り、様々な活動の案内状づくりなど学習活動の具体的な場面や条件に即した指導を行う。

【読むこと】

- ・ 筆者の考えを自分の言葉で書き換えたり要約したりして書くことができるように、筆者が何を伝えたいのかを読み取れるようにする。

【言語事項】

- ・ 接続語による前後の文のつながり野段落の関係について理解が深まるように、読解指導の中で指導を行う。また、学習した漢字やローマ字が着実に定着するように、意識的に使ったり、反復練習を行ったり日常的に働きかける。

【その他】

- ・ 国語科で育成した言語能力が日常生活の中で活用できるよう他教科の学習や総合的な学習の時間を有効に活用する。

2 算数

全体的な傾向

- ・ 算数Aの平均正答率は全国平均をやや下回り、正答数の分布状況は全国と比べ7・9・15問の正答率が高く、13・14問の正答率が低い。
- ・ 算数Bの平均正答率は全国平均をわずかではあるが上回り、正答数の分布状況は全国と比べ10・11問の正答率が高く、8・13問の正答率が低い。

<分類・区分別集計結果>

【算数A】

分類	区分	対象設問数	平均正答率 (%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領の領域	数と計算	9	81.4	84.4	82.8
	量と測定	3	72.2	78.4	78.5
	図形	3	81.9	82.7	81.3
	数量関係	3	62.0	67.0	64.2
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0			
	数学的な考え方	0			
	数量や図形についての表現・処理	12	73.2	78.7	77.7
	数量や図形についての知識・理解	6	83.8	83.1	80.8
問題形式	選択式	5	81.5	81.7	76.7
	短答式	13	74.9	79.6	79.5
	記述式	0			

【算数B】

分類	区分	対象設問数	平均正答率 (%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領の領域	数と計算	6	57.8	56.8	55.8
	量と測定	6	62.9	61.1	59.9
	図形	4	54.7	57.3	56.4
	数量関係	4	56.3	57.2	56.8
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0			
	数学的な考え方	10	45.8	47.0	46.1
	数量や図形についての表現・処理	4	78.2	77.0	76.5
	数量や図形についての知識・理解	0			
問題形式	選択式	2	63.9	69.3	68.9
	短答式	7	65.6	64.4	63.7
	記述式	5	36.7	37.8	36.8

※ 1つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

分類・区分別の傾向と課題

【数と計算】

- A 領域の平均正答率は81.4%で比較的高い正答率である。
- A 偶数の意味についての正答率は全国平均より16.3ポイント高いが、加法や除法の正答率は全国平均を5ポイントから13ポイントも低い。特に小数の除法の計算に課題がある。
- B 領域の平均正答率は57.8%で全国平均を2ポイント高い。特に、棒グラフから必要なことを読み取る内容は全国平均を7.2ポイント上回る。

【量と測定】

- A 領域の平均正答率は72.2%で市および全国平均より約6ポイント低い。特に、三角形の面積を求める内容に課題がある。
- B 領域の平均正答率は62.9%で全国平均より3ポイント高い。

【図形】

- A 領域の平均正答率は81.9%で他の領域と比較して高い。
- B 領域の平均正答率は54.7%で1.7ポイント低い。特に、図形の性質を基に考える内容に課題がある。

【数量関係】

- A 領域の平均正答率は62%で市平均を5ポイント全国平均を2.2ポイント下回る。特に、減法と除法の混合した計算に課題がある。
- B 領域の平均正答率は56.3%で全国平均とほぼ同じである。

算数に関する児童質問紙調査の状況

《傾向》

- 「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つ」「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている」と回答した児童の割合は、全国平均を約4ポイント下回るが、それ以外の質問においては全国平均を上回っている。特に、「算数の勉強が好き」と回答した児童の割合は、全国平均を10.4ポイント上回っている。また、「算数の勉強は大切だ」「算数の授業の内容はよく分かる」「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろは方法を考える」と回答した児童の割合は、市平均を上回っている。

指導改善のポイント

【数と計算】

- ・ 基本的には計算の確実な定着を図るために、計算の手順を確認しながら学習を進めたり、繰り返し学習を行うなど指導の充実・徹底を図る。

【量と測定】

- ・ 面積の大きさについての感覚を豊かにするために、公式をしっかりと覚えさせる。また、生活に生かすことができるよう身の回りのものの面積を調べる活動を取り入れる。

【図形】

- ・ 図形の定義や性質を確認するため、紙や模型などを実際に操作したり、作図をしたりする活動を積極的に取り入れる。

【数量関係】

- ・ グラフから必要なことを読み取ることができるために、日常生活において起こるいろいろな事柄を表したグラフを見て数量の変化の様子を考えたり、実際にグラフに表したりする活動を取り入れる。

【その他】

- ・ 自分の考えを言葉や式、図・表・グラフなど様々な方法で表現するよう指導する。また、お互いの考えを話し合う場も積極的に取り入れる。

3 児童質問紙調査

●…課題があるもの

《傾向》

- 学校教育スタンダードと関連の深い項目の中で特に、「学校のきまりを守る」「人が困っているときは進んで助ける」について肯定的な回答の割合は、市平均より6~9ポイント低い。しかし、「友だちとの約束を守る」について肯定的な回答の割合は98.7%、「人の気持ちが分かる人間になりたい」について肯定的な回答の割合は92.6%と高い。
- 「学校で友達に合うのは楽しい」についての肯定的な回答の割合は100%である。また、「学校で好きな授業がある」についての肯定的な回答の割合は98.8%と高く、全国平均より3~5ポイント上回る。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないこと」について肯定的な回答の割合は、97.5%で全国平均より2.6ポイント高い。
- 学習に関する項目では、「一日当たり1時間以上勉強をする」についての肯定的な回答の割合は市平均を約10ポイント下回る。また、「一日当たりテレビ・ビデオ、DVDを見る時間が2時間より少ない」についての肯定的な回答の割合は全国平均を7.6ポイント下回る。学習時間が少ない反面ゲームやテレビ・ビデオ、DVDを見る時間が多い傾向にある。
- 「読書が好き」と肯定的な回答の割合は72.8%で全国平均を1ポイント上回る。しかし、一日当たり30分以上の読書量については、市平均を6ポイント下回る。